

Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2016報告書



つくばピンクリボンフェスティバル2016

Breast Cancer Awareness

そうだ、乳がん検診に行こう！



タイムテーブル 2016年5月8日(日) 母の日

9:00	ウォーク 受付開始 中央公園東空き地
9:45	開会式 主催者挨拶 (名誉大会長 市原健一つくば市長) 開会の辞 (大会実行委員長 東野英利子) のの字の歌体操 (ムーラン・入江佳子) ストレッチ (東野英利子) 司会 (鈴木もえみ)
10:00	ウォーク 5km 出発 中央公園→竹園公園→松見公園→中央公園
10:40	松見公園で休憩
11:30	ゴールイベント 司会 (鈴木もえみ) 乳がん最新情報 「ダンスブレストとは」 植野映医師 乳がんクイズの答え合わせ 賞品抽選
12:30	閉会の辞 原尚人 (筑波大学附属病院副院長) 植野映 (つくばピンクリボンの会理事長)



発行：特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会

写真撮影：齋藤さだむ 他

写真・画像・記事等の無断転載、無断使用をお断りします。

主催 特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会 **Tsukuba Pink Ribbon Coalition**
つくばピンクリボンフェスティバル 2016 実行委員会

名誉大会長 市原健一 / つくば市長

名誉大会実行委員長 松村明 / 筑波大学附属病院長

大会実行委員長 東野英利子 / つくば国際ブレストクリニック

共催 茨城県保健福祉部保健予防課、つくば市、茨城県医師会、茨城乳腺疾患研究会、公益社団法人茨城県診療放射線技師会、公益財団法人茨城県総合健診協会、筑波大学附属病院、公益財団法人筑波メディカルセンター、公益財団法人日立メディカルセンター、一般財団法人茨城県メディカルセンター、総合病院土浦協同病院、社会医療法人若竹会つくばセントラル病院、公益社団法人茨城県歯科医師会

後援 公益社団法人茨城県看護協会、認定 **NPO** 法人乳房健康研究会、首都圏新都市鉄道株式会社、茨城県ウオーキング協会、**NHK** 水戸放送局、土浦ケーブルテレビ株式会社 **J : COM** 茨城、一般財団法人研究学園都市コミュニティーケーブルサービス (**ACCS**)、朝日新聞水戸総局、東京新聞水戸支局、株式会社茨城放送

協賛 (順不同) 関彰商事株式会社、学校法人広沢学園広沢グループ会長広沢清、学校法人広沢学園取手歯科衛生専門学校、一般財団法人茨城県メディカルセンター、一般社団法人石岡市医師会石岡市医師会病院、二の宮越智クリニック、医療法人社団新岳会研究学園クリニック、永田歯科医院、杉谷メディカルクリニック、医療法人おおたしろクリニック、土浦産婦人科、石川クリニック、中山産婦人科医院、医療法人社団双愛会つくば双愛病院、うえの整形外科、前島レディースクリニック、つくば学園ロータリークラブ、つくばシティロータリークラブ、株式会社カスミ、有限会社宮島達男事務所、東洋羽毛北関東販売株式会社茨城営業所、株式会社横山印刷、古河ヤクルト販売株式会社、株式会社アートネイチャー、茨城県立つくば美術館内ミュージアムショップ a、塚本工業株式会社、株式会社皆葉自動車 皆葉真治、アストラゼネカ株式会社、エーザイ株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社ヤクルト本社、協和発酵キリン株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、サノフィ株式会社、塩野義製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社、日本化薬株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、ファイザー株式会社

協力 日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団、くるみの会、たんぽぽ会、森の会 - 筑波メディカル・ピンクリボンの会 -、つくば国際大学医療保健学部 診療放射線学科、田中佐代子 / デザイン、西尾ナノラ / イラスト

連絡先 特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会事務局
ファックス : 029-856-2002
E-mail pinkfes2012@mbr.nifty.com
〒305-0005茨城県つくば市天久保1-1-1筑波メディカルセンターメディカルスクエア2F

つくばピンクリボンフェスティバル 2016は無事終了しました

実行委員長 東野 英利子
つくば国際プレストクリニック

「そうだ、乳がん検診に行こう」という素敵なテーマを掲げたつくばピンクリボン2016は素晴らしい好天に恵まれました。朝の荷物運び、設営と風船作りがひと段落すると、受付が始まり、鈴木もえみさんの軽妙な司会による開会式、ゆるキャラの紹介、「のの字の歌体操」に続きウォーク開始となりました。今まで私はランや自転車ばかりでウォークに参加したことはほとんどなかったのですが、今回は市原市長、原筑波大学副病院長とともに先頭を歩かせて頂きました。市原市長がバナーを一緒にお持ち下さいました。後続のことを考えないマイペースで歩いてしまい、非常に長い、ややまばらなウォークとなってしまいましたが、皆さんが自分のペースで、おしゃべりをしながら歩いているのはなかなか良いものでした。私の都合もあり、「母の日」開催でした。ウォークが始まったのは10時少し過ぎだったと思いますが、ゴールデンウィークの最後で、つくばの街には人通りがやや少なかったのがアピール度という点では少し残念だった気がしました。



松見公園での休憩と写真撮影、戻ってからは植野先生の「デンスプレスト」についての説明、乳がんクイズの正答発表と正解者へのプレゼント抽選と続きました。会場では綿あめ、ポップコーン作りが行われるなど、新しい企画がそこそこに見られたのにスムーズに進んだのは皆様の準備がよかったからだと思います。後片付けの後、反省会がありました。今回はすべてのプログラムがほぼ午前中に終了したので、反省会でも疲れ切ることなく、和やかな雰囲気であったと思います。

私は大会長を務めさせていただきましたが、実務はほぼすべて事務局のバイタリティのある皆様がやってくれました。彼女たちの負担があまり大きくなければよかったと思っています。今回は「そうだ、乳がん検診に行こう」というよいテーマを選ぶことができましたが、昨今の情勢から同じテーマが他で使われていたりすると問題となったりするので、毎回テーマを決めるのはかなり難しいところかと思っています。テーマが必須かどうか再考してもよいかと思っています。また今回は良いテーマであるのにテーマを象徴するような企画を考え付くことができなかったことを申し訳なく思います。

私は大会長を務めさせていただきましたが、実務はほぼすべて事務局のバイタリティのある皆様がやってくれました。彼女たちの負担があまり大きくなければよかったと思っています。今回は「そうだ、乳がん検診に行こう」というよいテーマを選ぶことができましたが、昨今の情勢から同じテーマが他で使われていたりすると問題となったりするので、毎回テーマを決めるのはかなり難しいところかと思っています。テーマが必須かどうか再考してもよいかと思っています。また今回は良いテーマであるのにテーマを象徴するような企画を考え付くことができなかったことを申し訳なく思います。

何はともあれつくばピンクリボン2016は大成功だったと思います。その要因は各人が自分にできる部分で進んでご協力いただけましたことかと思っています。

最後に今回ご参加いただきました皆様に深く感謝したいと思います。

乳がん検診推進のために

樋口 ゆう子

茨城県保健福祉部保健予防課がん対策推進室

今年も「つくばピンクリボンフェスティバル2016」が盛大に開催されましたことに、心からお祝い申し上げます。



また、つくばピンクリボンの会理事長の植野先生、実行委員長の東野先生をはじめ、会員や関係者の皆様が、長年にわたりこうした乳がん検診の啓発活動を通し、県民の健康増進に大いに寄与しておられますことに深く敬意と感謝の意を表します。

当日は新緑が眩しく、汗ばむほどの五月晴れのなか、参加者の一員として、つくばの街を練り歩きながら、皆様方の澁刺とした元気や明るさ、「乳がん検診をひろめたい」という熱意にふれるとともに、この催しがすっかり街の年中行事として定着されているように感じ、素晴らしいことと思いました。今年は、「ハッスル黄門」も初参加させていただき、皆様と楽しくふれあうことができました。

さて、本県では、昨年12月に制定された「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」及び、第三次の「茨城県総合がん対策推進計画」に基づき、がんによる死亡者数の減少やがん患者さんとその家族に対する支援により、がんになっても安心して暮らせる社会の実現を目指し、各種施策に取り組んでいるところです。

中でも、がん検診の受診率につきましては、30~40%台と全国平均に比べて低いものもあることから、条例では受診率50%の目標を掲げるとともに、特に、女性特有のがんの予防の推進や、女性ががん検診を受けやすい環境整備にも努めていくこととしております。

受診率向上のためには、県民の方が、がんに関する正しい知識を習得し、早期発見のための検診の大切さを御理解いただくことがとりわけ重要ですが、この「つくばピンクリボンフェスティバル」は、多くの方に乳がんに関する知識と検診の必要性を御理解いただくうえで、大変意義深いものと考えております。

今後つくばピンクリボン活動の益々のご発展をご祈念申し上げますとともに、本県のがん対策への御理解と御協力を賜りますようお願い致します。

♥ 「つくばピンクリボンフェスティバル2016」に参加して

三好 義章

茨城県ウォーキング協会会長

爽やかな五月晴れの一日、本協会からは6団体92名が参加させて頂きました。手に手に、ピンクのハート型風船を持ちながらのウォークは、普段の私達のウォーキングスタイルとは違って新鮮でした。

心ませるゆるキャラ達に見送られ、開会式場を出発。国際会議場や竹園公園、中央公園と歩みを進め、松見公園で記念撮影、休憩となりました。

歩くには、少し汗ばむ陽気となりましたが、水辺で談笑しながら涼を取り、ゴールへ向かいました。

ピンクリボンフェスティバルは、各地域から参加された親子連れ、子ども達、若者たちの笑顔が溢れ、楽しく歩く事が出来ました。

乳がんという病気を知り、早期発見、早期治療のために「乳がん検診」が大切であるということ、家族や地域ぐるみでPR出来、良かったと思います。また乳がんの早期発見につながる「のの字の歌体操」や、クイズ形式での啓発活動も、初めての貴重な体験でした。

これからもピンクリボン運動が継続され、益々盛んになりますよう、お祈り致します。

♥ つくばピンクリボンフェスティバルからのメッセージ

太田代 紀子

おおたしろクリニック

実行委員の皆様とボランティアの皆様との協力が織りなす素晴らしいフェスティバルでした。私は日立市かみね動物園のキャラクター「かみねっちょ」を同行しての参加となりました。体は“かば”、黄色い羽根は“みみずく”、青いしっぽは“ねずみ”というきれいなピンク色のゆるキャラです。かわいい！ ピンクリボンフェスにぴったりでした。

晴天と涼風、ゆるキャラも、風船も、綿あめも、いずれ



もが郷愁の風景を切り取ったような中で過ごしました。「私はとても楽しかったけれど、啓発できたのかしら？ そういえばすれ違う人がまばらだった」と、心配になりました。

よく考えてみれば、乳がんクイズに参加した人たちは景品にワクワクしながら楽しい思い出と共にメッセージを持ち帰ったと思いますし、参加していない多くの人には報道を通して私たちのメッセージが伝わっているだろうと期待して、安心しました。

昨年秋の有名なチクチク乳がんカミングアウトは、乳がんへの意識を高めることには大いに貢献してくれたと思います。しかし、知識が伴わず不安に思う多くの人達で現場は混乱しました。日頃から乳がんへの意識と正しい知識があったらと思いました。この観点から、フェスティバルの乳がんクイズは大切な役目を担っていました。さらに、日常的に高校生対象のがん教育や大学・専門学校への講演などを積極的に行うのが効果的でしょうか。

あと一息の所まで来た検診受診率50%、もう少し、もう少し・・・、乳がんと言われても皆が元気に過ごせるよう願っています。

♥ こどもたちと一緒に

八城 健彰

日本ボーイスカウト茨城県連盟 つくば第3団委員長

ピンクリボンへの初参加以来11年目の参加となりました、それはつくば第3団の歴史と重なります。おかげさまで「つくば第3団」は発団10



年にしてボーイスカウト茨城県連盟の中で加盟員数TOPの座を占めるに至りました。これもまた皆様をはじめ地域の方々のご配慮とご支援の賜物と感謝申し上げ、人が人としての幸せを生きる方法を身に着けるボーイスカウトの青少年社会教育へのご支援とご理解を今後とも賜りますようよろしくお願い申し上げます。

折戸 康則

つくば第3団ビーバースカウト隊長

ピンクリボンフェスティバル運営本部の皆様、今年もお世話になりました。

ボーイスカウトつくば第3団は、今年も団が一丸となって全面的にお手伝いさせていただきました。私は、就学前年長～小学2年生の子供たちが集うビーバースカウト隊の指導者として参加しました。

私の所属するビーバースカウト隊は、まだ親離れしていない幼い子どもたちが中心の隊ですが、その分、団の中で最もおかあさんたちとの結びつきが強い隊でもあり、毎

年多くのスカウトのおかあさんたちにピンクリボンフェスティバルのウォークラリーに参加いただいております。

スカウトたちは、まだ幼い年頃なので、乳がん検診についての理解は正直いまひとつだったようですが、「ひとりでもおおくのおかあさんたちをすくいましょう」をモットーに、ことしも両手いっぱいピンクバルーンを抱えて、ひときわ大きな声でウォークラリーをがんばって踏破しました。ビーバー隊に随伴していただいたスタッフの皆さん、安全確認等のケアサポートを頂きありがとうございます。今年は母の日の開催ということもあり、当日の活動を通じて「母への感謝の心」・「母の健康を想う心」と、「社会貢献」をうまくリンクさせてスカウトに伝えることができました。

このような貴重な機会をスカウトにご提供いただき、本当にありがとうございます。今後もピンクリボン運動の一層のご発展に微力を尽くしてまいりたいと思います。

♡ ポスターへの思い : After the Rain

西尾 ナノラ

筑波大学芸術専門学群ビジュアルデザイン領域

ポスターの題名は『After the Rain』です。タイトルのとおり、雨上がりをイメージして描きました。つくばピンクリボンフェスティバルは、ウォークをメインイベントとして行っているということでしたので、最初に歩いている女性のイメージが浮かびました。歩くだけの単調な構図では、見ていて奥行き感やインパクトが薄いので、ダイナミックな構図で歩いている女性を描きました。

舞台が雨上がりなのは、雲間から光が差し込むほうへと顔を上げ、水溜りも気にせず自信たっぷり歩くカッコイイ女性が描きたかったからです。私が雨上がりに対して個人的に持っているイメージや印象は、“克服する”や“乗り越える”というようなポジティブなものです。そのポジティブさを乳がん検診に重ね、皆さんに気持ちよく伝えたいと思いました。そして若い世代にも、働いておられる女性の方々にも支持されるように、なるべくシックな絵柄と色を使用して、雨上がりの舞台を歩くカッコイイ女性を表現しました。

そしてピンクリボンを女性の胸元に自信ありげにはためかせて目立たせ、見る人によっては、目的地から帰る場面にも、目的地へ向かう場面にも見え、どちらにしてもこの女性にはなにか良いことがあったという印象を持ってもらえるように描きました。そして、歩いている方向には、心地よいお日様の光が差し込んでいます。

乳がん検診を煩わしく思わず、早期発見に向けて歩いてほしい、たとえ今、雨が降っていたとしても、太陽に照らされるときがいつか来ることを知ってほしいという、私が思い描くポジティブなイメージを、『After the Rain』というポスターに、乳がん検診への思いとともにこめさせていただきました。

♡ 『“のの字の歌体操”をピンクリボンの定番体操に』

入江 佳子

筑波大学附属病院 がん看護専門看護師

初夏の陽気の中、つくばピンクリボンフェスティバル2016に参加し、とても楽しい時間を過ごすことができました。準備体操では、ムーランさんの優しい歌声に合わせて、参加者の皆さまや茨城に縁のあるゆるキャラ達と一緒に“のの字の歌”体操を踊りました。



のの字の歌体操は、昨年つくばピンクリボンの会の皆さまと一緒に考えた、乳がんの自己検診と乳がん術後の後遺症予防を意識した体操です。肩周りをたくさん動かすので、代謝Upやシェイプアップ、四十肩予防にも効果があります。この体操を続けることによって、女性がいくつになっても綺麗で活躍できるといいな、と思います。昨年からたくさんの方々にご協力いただき、いろいろなイベントで踊っていただいたり、YouTubeにもアップされ、少しずつ“のの字の輪”が広がっているのがとても嬉しいです。定期的のにの字の歌体操をして、「そうだ、検診に行こう！」と忘れず検診できるきっかけになり、みんなが生き生きと過ごせるといいですね。

今年のフェスティバルにもたくさんの方が参加してくださいましたが、特にご高齢の方やお子さん達が前の方で踊ってくださったのが印象的でした。しかし、簡単な♪のんのの字～♪のところはよかったのですが、複雑な振り付けのところは少し難しそうでした。ゆるキャラやボーイスカウトのちびっ子たちにも踊りやすくわかりやすい、簡単バージョンもあるといいな、と思いました。また、会場が平坦な広場で、後ろの方が見えにくそうだったので、



のの字ガールズ!?, ダンサーズを増やして、いろいろな場所に見本のダンサーがいるとよいか、と思いました。

来年に向けての課題も見つけたので、更にピンクリボンフェスティバルや、乳がん検診の啓発、乳がん医療が更に発展するように取り組んでいきたいと思っています。そして、つくば発祥の“のの字の歌”体操が、ピンクリボ

ンフェスティバルの定番体操になり、日本中に広がるとい
いな、と夢は広がります。

♥ つくばピンクリボンフェスティバル 2016に参加して

村中 博幸

つくば国際大学 医療保健学部 診療放射線学科 サークル顧問

晴天の下、つくばピンクリボンフェスティバルが盛大に
開催されました。今回の参加が初めてでしたが、とても貴
重な体験でした。本学の学生も8名がバルーンアートに協
力して、大会を盛り上げてくれました。彼らは、前日から
積極的にバルーンアート製作の練習を行い、当日に備えま
した。彼らは皆、診療放射線技師を目指す学生達で、マン
モグラフィ検診の重要性は十分理解しています。今回のイ
ベントに参加してより一層、検診の重要性を感じたと思い
ます。また、バルーンアートを通じて小さな子供さんとふ
れあい、とても優しい気持ちになれたと思います。今年我々
は、残念ながらウォークには参加出来ませんでしたが、天
気も良く清々しい街中を歩くのは、とても良い企画だと思
います。来年は是非一緒に歩きたいと思います。このよう
な盛大な企画は、全国でも数少ないとお聞きし、ほんの少
しでもスタッフとして参加できたことに感謝しております。
来年も是非、学生と一緒に参加したいと思います。

安田 ゆみ恵 (代表)

診療放射線学科3年

つくばピンクリボンフェスティバルには初めて参加さ
せて頂きました。天候にも恵まれ、子連れの方から若い女
性まで多くの来場者で賑わっていました。イベント内では
乳がん検診についてや自分でも気軽に出来るチェック方法
など普段はなかなか聞くことのできないことが聞けてとて
もよい機会となりました。

実際に病院などで働かれている診療放射線技師の方々
ともコミュニケーションを取ることができ、私たち学生に
とってもよいイベントでした。また機会がありましたら是非
参加したいと思います。

小岩 優里瑛 (副代表)

診療放射線学科3年

今回ピンクリボンフェスティバルに参加させていただ
いて地域の人々の乳がんへの関心の高さを感じられまし
た。イベント内容も楽しいものばかりでこのフェスティバ
ルを機にさらに多くの人に関心をもってもらえたら良いと
思いました。学生としてこのような企画に参加することは
とてもいい経験なので今後も機会があれば参加したいと思
いました。

岡田 蒼衣

診療放射線学科3年

今回私たちはバルーンアートの披露をしましたが、小さ
な子供さんからお年寄りの方までバルーンを受け取って
もらい、たくさんの笑顔を見ることができ、本当にやりがい
を感じた1日となりました。もしまた機会があればぜひ参
加したいと思います。ありがとうございました。

田所 優香

診療放射線学科2年

今回初めて参加したつくばピンクリボンフェスティバ
ルでは、会場の装飾やバルーンアートを作成させて頂きま
した。初めての体験で至らない点ばかりでしたが、バル
ーンアートを通して多くの子どもたちやそのご家族の方に
少しでも乳がん検診に興味をもって頂き、乳がん検診の啓
発となったのであれば嬉しく思います。

今回は本当にありがとうございました。

杉原 理菜

診療放射線学科2年

ピンクリボンフェスティバルへの参加は初めてでし
たが当日は天候にも恵まれ、多くの方々と触れ合い、とて
楽しく過ごすことができました。実際に医療職に就いてい
る方とも交流し、病院以外でも心配りや先を見て動く姿に
、自分もそういう人になりたいと思いました。バルーンア
ートでは、たくさんの笑顔に出会うことができ嬉しかった
です。今回の参加は自分にとって、とてもいい刺激になり
ました。また参加したいです。

具志 万梨花

診療放射線学科2年

つくばピンクリボンフェスティバルにて、朝の準備作業
とバルーンアートに参加させて頂きました。大勢の人が参
加してくださり、バルーンアートの作品も手に取っていた
だけで、とても嬉しかったです。乳がんについてのクイズ
、検診を呼び掛けるウォークなどの催しも行われていて、
少しでも多くの人に検診の大切さを知ってもらえたのでは
ないかと思います。参加できて、本当に良かったです。あ
りがとうございました！

渡辺 さつき

診療放射線学科2年

今回ピンクリボンフェスティバルに参加させていただ
きありがとうございました。乳がんについて子供達も楽しめ
るようなクイズ形式だったため気軽に参加でき、考える機
会ができてよかったです。また、バルーンアートの企画で
は大勢の子供達や孫にあげたいとご年配の方にもたくさん
喜んでもらうことができたので、私もとても楽しく作らせ
ていただきました。また機会があれば参加したいと思います。

久村 こころ

診療放射線学科2年

雲ひとつない晴天の中、私は初めてピンクリボンフェスティバルへ参加しました。ゴールデンウィークの最終日ということもあってか、大勢の方々が参加してくださっていました。女性だけでなく子供や男性も沢山いらしたの少し驚きでした。私達は実際にウォークには参加せず会場設営やバルーンアートの作成などをさせていただきましたが、子供だけでなく様々な年齢層の方と触れ合うことができ、温かい気持ちになりました。又、乳がんクイズ等タメになる項目もありみんなで楽しむことができたので貴重な経験をさせていただいたと思います。

このピンクリボンフェスティバルをきっかけに乳がん検診に行ってみようと思う人が少しでも増えたら嬉しいと心底思いました。次回も是非参加したいです。



♥ つくばピンクリボンフェスティバル 2016 - 母の日 -

春日 きくえ

(一財) 茨城県メディカルセンター

母の日のピンクリボンフェスティバルに、スタッフとして参加させていただきました。

快晴の青い空の下、ピンクの風船に囲まれた、緑いっぱいの広場には、昨年にして大勢の方が参加されましたが、ボーイスカウトのちびっこや、お母さんと一緒に小さいお子さんがたくさん参加されていたのが印象的でした。



ちびっこの大好きな「ゆるキャラさん」が転ばないように、お手伝いをさせていただきましたが、短い足でゆっくりゆっくり歩く「ゆるキャラさん」がかわいらしく、ちびっこに大人気でした。

「のの字の歌の体操」や、ウォークに出発する皆さんのお見送りや、お出迎えをしたり、汗だくで頑張ったゆるキャラの皆さん、お疲れ様でした。お子さんの楽しい思い出になったと思います。このフェスティバルに参加して、大好きなお母さんのおっぱいがいつまでも健康でありますように、乳がん検診を受けることへの関心が女性だけでなく、若い方や男性の方にも深まっていくことを期待しています。

私は健康診断の仕事に従事していますが、早期発見・早期治療の大切さを分かっていてもそれを普及していく難しさがあると思います。ピンクリボンの会の皆さんの活動が、乳がん検診を受けるきっかけとなって、ひとりでも多くの方の命が救われればと願っています。

最後に、実行委員の皆様元気いっぱいの笑顔で、楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。来年も素敵なフェスティバルになることを楽しみにしています。

♥ 乳がん検診は身近なこと

齋藤 亜里佐

公益財団法人日立メディカルセンター総務課

当日は心地よい風の中、イベント日和に恵まれました。ピンクリボンの風船はハート形のため膨らませるのに難航していると、毎年参加して



いる方は手慣れたもの、あっという間に会場周辺はピンクの風船で埋め尽くされました。風船を持ちつくば公園から松見公園まで5kmウォークラリーに参加しました。皆さんおそろいのピンクベレー帽やバンドナなど、思い思いの衣装でとても華やかです。お休みの日を公園で過ごそうとお子さんの自転車に付き添うお母様や、レジャーシートを敷いて休憩している親子の方などに風船をお渡しし、乳がん検診の大切さPRをしました。

会場では県内のゆるキャラと一緒に、日立から「かみねっちょ」(神峰動物園のマスコット：かば、みみずく、ねずみの要素を持つ空想上の動物です)が参加し盛り上げました。「のの字の歌体操」やクイズ大会(なんと豪華景品付き!)もあり、楽しみながら乳がん検診の大切さを知ることができます。その中で「デンスブレスト」という言葉を初めて聞きました。植野先生のお話から乳腺濃度の高い乳房のことで、日本人は欧米人よりデンスブレストの比

率が高いそうです。その場合マンモグラフィ検査より乳房超音波検査が適しているとのことでした。ここで改めて、乳房超音波検査の必要性についても再確認することができました。余談ですが植野先生の出身地が和歌山県ということもすっかり脳細胞に埋め込まれました。

百聞は一見にしかず、参加することでさらに乳がん検診がとても身近なものに感じました。近所の方に乳がん検診の問い合わせをいただいても怖気づくことなく心からお勧めすることができるようになりました。私たち医療に携わる一員として今後とも早期発見、早期治療を推進してまいりたいと思います。

♥ 「けんこうリンク」 がん検診へ行こう！

小澤 亜由美

(公財) 茨城県総合健診協会

ピンクリボンフェスティバルは今年で二回目の参加となります。今回は、当協会の参加者21名がおそろいのグリーンのTシャツとピンクの



ベレー帽をかぶり、大勢の参加者の中でも特に派手な装いで参加させていただきました。

昨年初めて5キロウォークに参加した際には息が上がってしまいましたが、一度経験したことで今回は気を楽しんで臨むことができたためか、思ったよりも早くUターンし、ゴール地点（中央公園）が見えてきました。「私も体力が上がったんだなあ」と思いながらよくよく前を見てみると、なんと、先頭集団があっさりゴール地点を通り過ぎていくではありませんか……。そこでようやく私は松見公園まで行ってから中央公園に戻ることを思い出し、やはり現実はそう甘くないなあと思いつつ、小さなお子さんを含め大勢の参加者のはつらつとした姿に元気を貰い、乳がん検診の普及に少しでも役立つと、いっそう強く進んでいきました。

また、ゴール後に行われた「乳がんクイズ大会」にも楽しく参加させていただきました。乳がんについて、とても勉強になる質問ばかりであり、特に「植野先生の出身は茨城県である」の質問が一番難解でした（笑）。正解者の中から抽選で多数の賞品が贈られ、いよいよ一等の当選者が発表されました。さすがに一等はないなあと思っていたら、なんと私の名前が呼ばれ、ピンクのかわいいキャリーケースをいただけてしまいました。

毎年、様々なアイデアによって楽しく開催して下さる運営スタッフの皆様感謝の意を表し、ピンクリボンの会の益々の発展を願いつつ、私もいただいたキャリーケース

にピンクリボンのステッカーを貼って乳がん予防をアピールしていきたいと思っています。ありがとうございました。

♥ ピンクリボンフェスティバル2016 ボランティアに参加して

大田 幸子

社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院

今回2005年の参加以来、久しぶりのピンクリボンフェスティバル参加となりました。当日は天気もよく、とても気持ちのいい季節の中



参加出来るととても楽しかったです。今回はボランティアとして朝の風船作成からウォーク交通整理として参加しました。朝の風船作成は他のボランティアの方々とも少しお話をさせていただき、ボーイスカウト、ガールスカウトの子供達とも和気あいあいとしながら作成できました。ウォーク交通整理では通行する人たちに「お疲れ様」「ありがとう」など声をかけていただき、とても楽しみながら出来ました。フェスティバルも丸一日ではなく、午前中の涼しい時間から正午までと短い時間の中で行われることもよかったです。メイン会場ではクイズやゆるキャラ登場、綿あめ、ポップコーン配布など子供達にも楽しめるものもあり、家族連れの方々がたくさん来場していただける内容だったと思います。

私は普段超音波での乳癌検診、精密検査を担当させてもらっていますが、ここ最近は検診受診者も増え、検査中も「MGと超音波どちらがいいの？」「1回受ければいいのか？」等、いろいろと質問をいただくようにもなりました。みなさんの関心が高まっているのだなと実感しています。これからも検診の大切さをピンクリボンを通してお伝えしていけたらなと思っています。

今回は参加させていただき、本当にありがとうございました。

♥ バルーンの飾り付けとウォークに参加して

阿部 八千代

茨城県診療放射線技師会

お天気に恵まれた当日、男性陣は力仕事に駆り出されていきました。女性陣はピンクバルーン作りと飾り付でした。地面の草に触れると割れてしまうので、膨らませたそばからすぐフェンスに飾るように工夫していきました。徐々に分散し、会場がピンクバルーンに囲まれました。つくば国際大学の学生さんのバルーンアートも着々と出来ていきま

した。

開会式のあとウォークも参加しました。5 km、普段歩かない私としては結構な距離とと思っていましたが、話しながら歩



けばあつという間でした。松見公園で遊んでいた子供たちにバルーンをプレゼントして、それをきっかけにお母さん方とお話が出来て、なんとなくピンクリボンの輪が広がったように思えました。

ちょっと残念だったのは、せっかくのウォークに今年はバルーンだけを持って歩いてしまったことです。技師会としても乳がん検診啓発の旗とかプラカードとかを用意して、持って歩いたほう良かったのではと思いました。

それにしても実行委員の方もお手伝いのかたもパワフルで圧倒されました。少しでも検診率のアップにつながればと思います。参加させていただきありがとうございました。

笑顔で学ぶピンクリボンフェスティバル

榊原 道明

株式会社ヤクルト本社

つくばピンクリボンフェスティバル2016の大成功、おめでとうございます。

毎年お手伝いをさせていただき今年で5回目となりました。



参加するたびに感じることは、前回成功したからといって同じことをするのではなく、毎回創意工夫をされ、どうすれば多くの方に参加いただけるか常に検討されていることです。今回の参加者はなんと700名、本当に素晴らしいですね。お手伝いさせていただく立場でありながら今年はどういう企画になるのかと、ワクワクしながら待っています。そして今年も、私の期待を超える、笑顔あふれる素敵なフェスティバルだったと思います。

今年も、ゆるキャラに入るという形でお手伝いさせていただきました。視界も狭く、全体の状況があまり見えな

い中でしたが、それでも印象的であったのは参加者の皆様はもちろん、先生方やスタッフの皆様の笑顔でした。完全屋外のイベントということで天候も気になっておりましたが、快晴！ゆるキャラには少しつらさもありましたが本当に気持ちのいい天気で、実行委員会の皆様のパワーが天候にも表れたのだと思いました。個人的には、ゆるキャラに入っていたおかげで多くの皆様に囲まれ、人気者になったような気分になり、私自身も元気をいただきました。(笑)

がんという、かたくて場合によっては少し暗い話題になるようなことを笑顔で楽しく過ごしながらかる機会として、とても良いフェスティバルであったと思います。乳がんクイズやのの字体操、ダンスブレストや誕生日月の検診など、コンパクトながら大変勉強になることもたくさん。がんで苦しむ方をひとりでも減らす活動に携われたことを誇りに思います。この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。

ゆるキャラ達と共に

大橋 裕孝

エーザイ株式会社

今年も、つくばピンクリボンフェスティバル2016が大盛況で終了しましたことを心よりお慶び申し上げます。私は今年で5回目の参加をさせて頂き、役割としては昨年と同様にゆるキャラ達と共に啓発活動のお手伝いをさせて頂きました。

昨年と大きく違った点としては、ゆるキャラの数です。事前打ち合わせの際に、今年は昨年の倍の8体来るとお伺いした時、驚愕したと共にどんなフェスティバルになるのか期待と不安が入り混じった気持ちでした。こんなに多くのゆるキャラが集まるイベントは今まで見たことがなく、実行委員の皆様の絶え間ない交渉の結果だと感じております。

当日はスタッフ全員の協力により、大きな問題もなく無事終了することができました。今年も子供達の無邪気に喜ぶ声・笑顔を見ると、暑さや疲れも忘れあつという間の時間でした。また開会式・閉会式だけでなく、ウォーク休憩所の松見公園にも、ゆるキャラを登場させる事ができ、公園で休日を過ごしていた家族連れの皆様にも喜んでいただけ、乳がん検診のきっかけにつながったのではないかと感じております。乳がん検診の大切さを一人でも多くの皆様に知っていただくよう来年も微力ながら是非、参加させて頂ければと考えております。『来年はゆるキャラ何体来る



ツクツク



ハッスル黄門



つちまる



かみねっちょ



キララちゃん



千姫ちゃま



もりやもり



ヤクルトくん

のかな?』今から楽しみにしております。

♥ ピンクリボンフェスティバル 松見公園を担当して

長岡 恵利子

森の会・筑波メディカル・ピンクリボンの会

昨年は、体調が思わしくなかったため、フェスティバルの準備に参加することがあまりなかったのですが、今年は、5月の連休から参加することが出来て、良かったです。



当日は、受付と松見公園を担当になりました。会場が広いので、ステージのマイクの音声も、受付テントの方まで届かず、プログラムがどこまで進んでいるのかわかりませんでした。

松見公園でのゆるキャラのお迎えは、みなさん嬉しそうに、ゆるキャラと一緒に写真を撮ったりしていました。ウォークの方々は、松見公園に入って来るときは、ゲートがないので、いろんなところから入ってくる状況でした。飴とピンクリボンの葉書を配るのを6名くらいの人で配ったので参加者全員に配ることが出来たと思います。その日は、日差しも強く、けっこう暑かったのですが、松見公園は木かげも有り、参加者は、休憩を取る事が出来て、場所は良かったと思います。常総市の千姫ちゃまの借入、返却を担当しましたが、皆に知られていないのではないかと心配しましたが、子どもたちが喜んでいたので安心しました。

♥ 展示ブースを担当して

鈴木 厚子

森の会・筑波メディカル・ピンクリボンの会

「女性に一番多いがんは、なんでしょう?」そんなクイズから始まった、今年のピンクリボンフェスティバル。クイズの答えを求めて展示ブースを訪れる人もいました。



“乳がんは、女性に一番多いがんであっても、早期発見で予後が良好”ということも、ぜひ知って欲しいなと感じ、私の一日がスタートしました。

展示ブースでは、乳がん触診モデルを使って、早期乳がんの発見と自己触診習得を呼びかけました。何人もの方々

が人体に近いモデルを触診し、その感覚を体験されました。“しこり”がわかると、「こんな感じなんだー」と納得したり、“えくぼ”やただれなど、皮膚状態の変化を視診で知る事が出来るんだと学んだりしていました。

また、「デンスブレスト」についての質問や問い合わせもありました。植野先生の講義を聴くために来たという方々がおられ、乳がん最新情報への皆さんの関心の高さを感じました。

展示ブースを担当して、私自身がまだまだ勉強不足だと実感する場面もあり、質問に上手く返答できなかったことが反省点です。それでも、多くの人達と触れ合いコミュニケーションを交わす事が出来たことは、楽しく新鮮でした。自己検診や乳がん検診の大切さを、少しは伝えることができたのかなと思っています。

朝早くから、準備に動くスタッフ、ボランティアの方々が、すがすがしい青空と木々の緑をバックに、しっかりと私の目に焼きついています。その中の一員として、微力ながら私も参加させて頂き、大変嬉しく光栄です。ありがとうございました。

これからは、乳がんで苦しむ人がどうかいなくなりますように・・・! 家族や友人も悲しい思いをしませんように・・・! そして、今後も、検診を受けてくださる人が増えますように・・・!! “つくば”という美しい地から発信する、つくばピンクリボンフェスティバル、これからも活動の更なる発展を願っています。

♥ そうだ、乳がん検診に行こう!

山田 光子

ミュージアムショッパ

このサブタイトルには誘われます。そうだ、思い切ってまずは行こう! と。原先生のお話でも県の受診率は4倍にアップしたとのことで、ピンクリボンをお手伝いして本当に良かったと思いました。

今年もフェスティバルの日は快晴でした。緑萌える中、ピンクの風船を持ってピンクのTシャツを着たウォーカーの列はいつまでも続いていました。こんなに大勢の人が関心を持っているフェスティバル、この長い長い列が受診率アップの証明ですよね。

フェスティバルの日の私の楽しみの一つは、1年ぶりにピンクリボンつながりで知り合った方たちの元気なお顔にお目にかかることです。近況を報告し合い、1年間って本当にあつという間なんだとお互いに思い知り、また再会



を約束します。

今年の私の主な仕事は横断幕製作とクイズ賞品調達という楽しい仕事でした。数十年ぶりでレタリングなどしての横断幕作りは昔々の文化祭を思い出し、嬉しい作業でした。

来年も元気で、できるところで参加できたらと思っています。お疲れ様でした！

♥ 初めてのピンクリボンフェスティバル

谷本 直子

つくば国際プレストクリニック

2016年5月8日、晴れ晴れとした五月晴れの良き日に、つくばピンクリボンフェスティバル2016は、開催されました。午前9時、集合場



所の中央公園東側広場は、淡いピンク色の風船でいっぱいです。実行委員会の方々が、早朝から1500個もの風船を準備してくださったとのこと。会場全体は、とても優しい雰囲気になっていました。また、つくば市のマスコット「つくつく」や、土浦の「つちまる」等、ゆるキャラと称される着ぐるみキャラクターも複数登場し、子供たちの喜びあふれる笑顔があちらこちらで見受けられました。

私は、救護班として、自転車でパトロールする役割を担いましたが、幸い傷病者の発生はありませんでした。大人から子供まで大勢の方々が、ピンク色の風船や、乳がん検診の啓発メッセージを掲げて、悠々とつくばのペデストリアンデッキを闊歩する姿は、とても清々しいものでした。また救護班として活動する傍ら、綿あめやポップコーンをサービスするブースのお手伝いも致しました。甘いお砂糖の香り、ポップコーンの食欲をそそる香ばしいにおいに誘われ、ふらりと立ち寄る通行人の方々も多くいらっしゃいました。「これは何のイベントですか？」と、子育て真っ盛りといった様子のお母さま方がふと足を止め、熱心に乳がん検診について質問される様子を見て、イベント開催における達成感を感じることができました。

今回参加された方の中には、実際に乳がんを経験された方もいらっしゃいました。病に侵されながらも、一生懸命に治療に耐え、日常生活を送られている方々には、心からの敬意を抱きます。また、ウォーキング途中に「乳がん検診を受けよう」と書かれた布を手を持って歩いている女性からお話を伺いました。親しいご友人を乳がんで亡くされ、それから毎年参加なさっているとのことでした。色々な思いを抱えた方々が乳がん検診の大切さを訴え、ひとつになっている素敵なイベントだと実感しました。ピンクリボンフェスティバルを運営されている方々に対し、改めて

感謝の思いでいっぱいになりました。

乳がん検診の早期受診は、多くの早期発見につながります。ひとりでも多く、乳がん検診を受診される方が増えまことを、願ってやみません。これからも、ピンクリボンフェスティバルに参加し、啓発活動を続けたいと思います。実行委員会および関係者の皆さま、今回のイベントに参加された皆さま、本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。

♥ つくばピンクリボンフェスティバル2016に参加して気づいたこと

渡邊 すみれ

取手歯科衛生専門学校3年

ピンクリボン活動とは、乳がんについての正しい知識を多くの人に知ってもらい、その結果、乳がんから引き起こされる悲しみから一人でも多くの人を守る活動のことです。乳がんの発生は、20歳過ぎから認められ30歳代ではさらに増え、40歳代から50歳代がピークであり、わが国の2013年の乳がん死亡数は女性約13,000人で、女性ではがん死亡全体の約9%を占めます。そんな女性に身近な病ですが、わたしは今まで乳がん検診をうけたことがなく、乳がんに対してどこか「他人事」のような意識をもっていました。乳がんは早期発見することができれば助かる確率や「乳房を温存する」など、自分の希望する手術法や治療法を医師と相談して選択できる可能性も広げることができるそうです。乳がんが「見つかる事」が怖いことではなく、「知らないまま」が怖いことだということも、今回の活動を通して知ることができました。この機会に、乳がん検診を受けてみようと思いましたが、周りの友人にも活動のこと、乳がん検診の大切さなど伝えていこうと思います。

また、乳がんは自分で発見できる数少ないがんの一つであり、自己検診が大切であることも、活動を機に知ることが出来ました。月に一度は自己検診を行うのが理想だそうです。まずは、自分でできることから始めていきたいです。

平井 玖実

取手歯科衛生専門学校2年

今年も5月に行われたピンクリボンフェスティバルに学校で参加をした。他の参加者の中には、がんの薬の副作用でなのか毛髪のない女性も参加していた。薬の副作用でそのような状態になっている人を実際に見るのは初めてで、その人が乳がんなのかは分からないが、闘病しながらも力強く生きている姿に感動した。闘病した人にしか分からない辛さや苦しさがあからこそ、このピンクリボン運動に参加する意味があるのだろうな、と私はその人を見て思った。

昨年は、みんなで歩くことに対して、そこまで深く考えなかったが、ピンクのTシャツやプレートを持ち歩くこと

によって関心のない人たちに乳がんのことを知ってもらおう、という大きな意味があったのだ。そもそもピンクリボン運動とは乳がんについての正しい知識を多くの人に知ってもらい、その結果乳がんから引き起こされる悲しみから一人でも多くの人を守る活動のことをピンクリボン運動という。日本人女性のうち発症するのは14人に1人と言われており、自分には関係ないと思っている人も居るかもしれないが自分が乳がんになることも十分にあり得る。乳がんに関心を持ちセルフチェックや検診を受けたり、欧米化している食事の見直しをすることが大切だ。女性は少しでもピンクリボン運動を通して乳がんという病気に関心を持ってほしいし、自分の愛する人達のために検診を受けて貰いたい。

浅野 寧々

取手歯科衛生専門学校 1年

5月8日に、つくば市で行われたピンクリボンフェスティバルに初めて参加させていただきました。晴天に恵まれ少し暑いく、ピンクの風船を持ち、ピンクのTシャツを着て公園から公園まで5キロを歩きました。このイベントは、2005年から続く乳がん検診を啓発するイベントです。今年で12回目を迎えました。

現在、日本では毎年4万人の方が乳がんを発症し、約1万人以上の方が亡くなっています。乳がんは、30代後半から40代、50代の女性が発症しやすいといわれていますが早期発見で9割以上治るとも言われています。早期発見するためには、視触診、マンモグラフィ検査、超音波検査などの定期検診、セルフチェックをすることが重要です。

私自身、今回のピンクリボンフェスティバルに参加するまで乳がんについて詳しく知りませんでした。しかし、今回参加して早期発見、早期治療、セルフチェックの重要性や大切さを知りました。だから、多くの方に、乳がん検査、セルフチェックの大切さを伝えていきたいと思います。また、定期健診も行っていたらいいと思います。



♡ みんなの力がひとつになって

神田 明季

国立研究開発法人 物質材料研究機構

1年ぶり2回目のボランティアとして参加しました。今回も主にボランティアスタッフさんの受付を中心にお手伝いしました。一般の参加者も多かったですが、ボランティアスタッフさん達もたくさんおり、いろいろな方々が関わって成り立っているのだと毎回感じます。



クイズなど趣向を凝らした企画も良かったと思います。クイズの採点を行いました。みなさん意外と正答率が低く驚きました。しかし、回答を誤った分新しい知識も増えますよね。私も挑戦しましたが、5問中2問正解という残念な結果でした。まだまだ、乳がんについて知らないことばかりで、今後も参加しつつ知識を増やしていきたいと思っています。

今回は、ウォーキング参加者をテントから見守っておりましたが、次回はウォーキングにも参加してみたいと思います。今後もフェスティバルが長く続きますように願っています。

♡ ピンクと青と新緑と

平井 理心

筑波大学附属病院 医療メディエーター

つくばの街には、ピンクのハート風船がよく似合います。



今年のつくばピンクリボンフェスティバルは中央公園東側の広場が会場となりました。

ピンクの風船に囲まれた会場は、行きかう人々を惹きつけるとともに、「あっ、ピンクリボンね」と、おなじみのイベントとして迎え入れられていました。

この会場で、ピンクリボンウォークの後のゴールイベントとして企画したのは、「乳がん最新情報」、「大人向けの乳がんクイズ」と「キッズ向けのピンクリボンクイズ」。まず、植野映先生から乳がん最新情報「ダンスブレストとは」の説明が10分ほどあり、みなさん熱心に聴き入っていらっしやいました。「ダンスブレストの話だけを聴きに來たんです！」という方も何人もいらっしやり、市民の方々の情報収集力と行動力には驚かされました。

また、クイズ大会においては、クイズの全問正解者には豪華賞品が抽選であたるということで、最後まで大いに盛り上がりました。実は、このクイズただのクイズじゃありません。私たち実行委員が、皆さんに知っていただきたいこと、メッセージが満載なんです。乳がんは罹患率が高いこと、異変を感じたら検診ではなく受診すること等を盛り込んだクイズになっていました。多くの方に楽しんでいただきながら、乳がんのことを知っていただく、いい機会になったと自負しています。

青空と新緑に包まれ、今年も盛会のうちに終了したつくばピンクリボンフェスティバル。ご参加いただいた方々、ご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

そして、来年も、つくばの街をピンクのハート風船で彩りますので、ご期待くださいね。

♥ 裏方をお手伝い

神田 裕子

ピアサポートつくば

つくばピンクリボンの会への復帰、そしてフェスティバル実行委員として参加は実に4年ぶりでした。体調が今一つで退会していた、つく



ばピンクリボンの会への復帰を決めたのは、体調が落ち着いてきたという理由もありますが、なんといいても会のみなさんの温かさにあります。退会していた4年間も変わらずにさまざまな楽しいイベントに声をかけていただきました。ホントにうれしかったです。

しかし、現実にはこの大きなイベントの運営の手伝いをするとなると尻込みしてしまう私でした。しかしそんな危惧は無用でした。温かくそして気持ちの大きなみなさんと共にいつの間にか、楽しく行動していました。それぞれが得意なことをがんばる、それはなんと不思議な楽しい日々でした。もちろん、楽しいことばかりではありませんけどね。

当日は天気も良くケガも事故もなく、進行もスムーズで、事務局の中心となった中野さん、山田さんの苦勞が実ったねっ！ とうれしく思いました。そして、この日のために毎月、忙しい中、遠方から実行委員会に参加してくださっている方々にも頭が下がります。イベント終了後にみなさんさわやかに「来年も！」と声を掛け合っていたこの気持ちこそが、このフェスティバルが11年の長きに亘って継続しているコアとなっているのだな、と思います。来年もみなさんとお会いするのが楽しみです。もちろん新人さん大歓迎です！



♥ 会計報告

1. 収入の部

項目	金額 (円)
協賛金収入	1,340,000
寄付金収入	6,500
雑収入	0
収入合計	1,346,500

2. 支出の部

項目	金額 (円)
会議費	58,136
イベント費	272,109
報告会費	32,652
旅費交通費	149,862
通信費	97,694
消耗品費	48,132
印刷製本費	513,170
賃借料	45,576
保険料	17,400
諸謝金	40,000
支払手数料	2,808
租税公課	6,300
雑費	4,860
支出合計	1,288,699

2016年5月末現在

♥ 参加データ

総数	720名
ウォーク	700名
実行委員・ボランティア	256名

♥ 取材協力

土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM茨城
財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス (ACCS)
茨城新聞
常陽新聞
日宣メディックス クータ

♥ 実行委員 (あいうえお順)

赤塚信子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
井口研子	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
池田達彦	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
石川えり子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
伊東孝子	たんぽぽ会
上野 修	上野歯科医院
植野 映	つくば国際プレストクリニック
梅本 剛	つくば国際プレストクリニック
太田代紀子	おおたしろクリニック
大野純子	
小田陽子	つくば国際プレストクリニック
小野幸雄	(財)筑波メディカルセンターつくば総合健診センター
春日きくえ	(一財)茨城県メディカルセンター
春日晴夫	
亀代直樹	(公財)茨城県総合健診協会
川上 清	茨城県ウォーキング協会
神田裕子	ピアサポートつくば
小仁所圭子	石岡市医師会病院
駒崎公代	
齋藤さだむ	写真家
酒井恵里	株式会社カスミ
清水亮一	(一財)茨城県メディカルセンター
鈴木厚子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
鈴木もえみ	フリーアナウンサー
田中佐代子	筑波大学芸術学系
東野英利子	つくば国際プレストクリニック
長岡恵利子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
永田 脩	永田歯科医院
中野潤子	くるみの会
野口 恵	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
原 尚人	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
坂東裕子	筑波大学医学医療系乳腺甲状腺内分泌外科
平井理心	筑波大学附属病院 医療メディエーター
文 由美	つくばセントラル病院外科
前島正基	前島レディースクリニック
光畑桂子	(財)筑波メディカルセンターつくば総合健診センター
宮崎満美子	
谷貝薫子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
八城健彰	日本ボーイスカウト茨城県連盟つくば第3団
柳田陽子	
山田光子	茨城県つくば美術館内 ミュージアムショップa
山田陽子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会-
吉澤智恵子	(公財)日立メディカルセンター



特定非営利活動法人つくばピンクリボンの会
Tsukuba Pink Ribbon Coalition

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-1-1 筑波メディカルセンター メディカルスクエア2F
Tel&Fax 029-856-2002

